

学会ニュース

日本女性学会

第2号 1980年5月

総会開催と公開シンポジウムの御案内

風薫る5月、皆さまお元気に御活躍のことと存じます。

さて、先に学会ニュース第1号で触れましたとおり、日本女性学会の第1回総会ならびに公開シンポジウムを、来たる6月1日に開催することにいたしました。総会の御案内状に替え、この2号をお届け申しあげる次第です。

日本女性学会は昭和54年1月22日に、発起人約10名による第1回設立準備会を端緒に、現在まで12回の学会設立準備委員会が召集され、女性学の定義、会則、活動方針、役割分担等について話合われました。

本年3月28日には第1回研究報告会が開催され、新メンバーも加わり現在会員数は80名です。本年2月には、学会ニュース第1号が発行されましたが、本号につづき今後も、この種のニュース・レターおよび、学会誌の編集を計画しております。学会としての活動は徐々に軌道に乗りつつあると思えます。

そして、このたびの第1回総会こそ文字通り会員の皆様の総意に基づいて規約を定め、よって日本女性学会の正式なスタートを互いに確認し合うためのものであります。日本における女性学の可能性を拓いて行く大切な1日であります。東京までの道のりの遠い会員の方がたには恐縮ですが、是非万障お繰り合せの上、御出席下さいますようお願いいたします。なお、出欠のお返事をお忘れなくお出し下さい（規約決定の必要上、御欠席の場合は委任状をいただけますように。また、規約原案についての御意見などもお寄せくだされば幸いです）。

総会に引き続き、午後からはシンポジウムを「女性学の出発」と題して行ないます。これは公開いたしますので、関心のある方を是非お誘いください。また、入会の意志ある方には、所定の手続き（4ページ参照）が必要ではありますが、この機会にお勧めくださることを併せてお願いいたします。

当日は受付で80年度の会費を申し受けますので、どうぞよろしく。また名簿作成の必要上、先にお送りした会員登録カードは、必要事項を記入のうえ、事務局の方に御返送願います。

日本女性学会はさまざまな専門分野を背景にもつ会員の皆さまによって構成されています。その刺激的な交流を通して、女性学という緒についたばかりの学問を豊かに膨らめて行きましょう。総会と公開シンポジウムを成功させるのはその第一歩です。

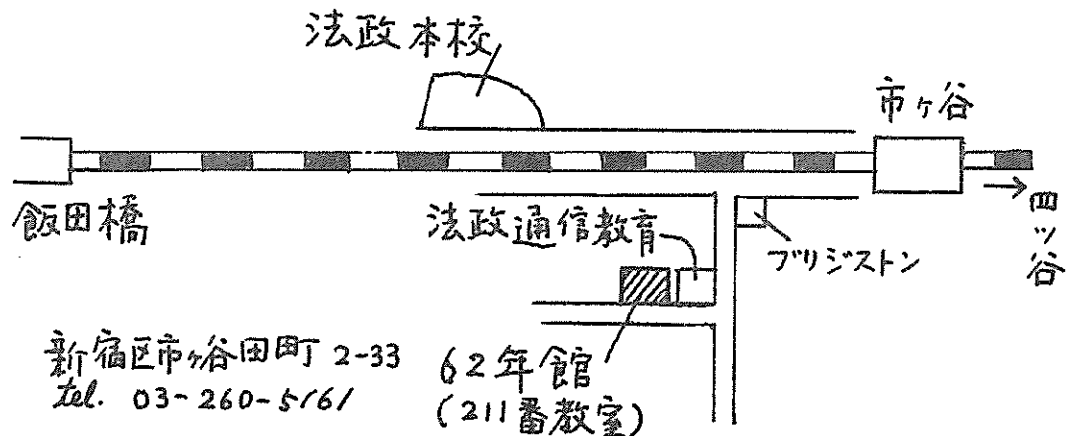
日本女性学会設立準備委員会

記

<p>日 時 1980年6月1日(日)</p> <p>午前10時より 総会</p> <p>午後1時より 公開シンポジウム(5時終了予定)</p> <p>場 所 法政大学62年館211番教室 (本校ではありません。地図を参照されお間違いのないよう)</p>	<p>経過報告</p> <p>会計報告</p> <p>規約の審議・決定</p> <p>80年度の活動方針ならびに予算</p> <p>幹事選出 等</p> <p>この会についてのお問合せは下記へお願いします。</p>
---	---

総会議事

開会の挨拶



会場は市ヶ谷駅(国電, 地下鉄有楽町線・都営新宿線)下車で, 徒歩5分くらい。地図は国電を念頭に描きましたが, 地下鉄ではもっと近い, 出口の位置を確かめた上でおいでください。なお, 付近にはおソバ屋さん, パン屋さんくらいしかありません。弁当御持参をお勧めいたします。

<総会資料 その1>

会計報告(昭和54年度)

昭和55年3月31日

<収入の部>

発起人拠金(12名)	¥ 60,000
寄附金	¥ 10,000
昭和54年度会費	現金分 ¥ 88,000
	振替分 ¥ 191,000
総収入	¥ 349,000

通信費
(切手代, 交通費一部) ¥ 32,480

総支出 ¥ 222,220

<昭和54年度残高> ¥ 126,780

<支出の部>

印刷費(趣意書, ニュース他)	¥ 93,300
事務局謝礼	¥ 60,000
事務用品代	¥ 14,640
集会会場費	¥ 21,800

日本女性学会規約(案)

- 第1条 本会は日本女性学会(The Women's Studies Association of Japan)と称する。
- 第2条 本会は人間解放の視点から女性学の確立をめざし、そのための研究および情報交換を行なうことを目的とする。
(2条別案) 本会は女性の地位向上をめざし女性学に関する研究(および普及)、ならびに内外の学会との交流を行なうことを目的とする。
- 第3条 前条の目的を達成するため、本会は次の事業を行なう。
(1) 研究会の開催
(2) 公開講演会の開催
(3) 学会誌の発行
(4) その他本会の目的達成に必要なこと
- 第4条 本会の会員は第2条の目的に賛同し研究をする者をもって構成する。会員は一般会員および賛助会員とする。
- 第5条 本会に入会しようとするものは、幹事会に入会申込書を提出し、その承認を受けるものとする。
- 第6条 会員は所定の会費を納入するものとする。会費の額は総会で決定する。
- 第7条 会員は書面をもって通知すれば退会することができる。
- 第8条 本会に幹事若干名を置く。
- 第9条 幹事は総会において会員中より選出され、幹事会を構成する。
- 第10条 幹事のなかから代表幹事を選出し、本会の代表者とする。
- 第11条 会の運営を円滑に行なうため、幹事のなかから常任幹事若干名を置くことができる。
- 第12条 幹事の任期は2年とする。ただし重任を妨げない。
- 第13条 本会に会計監査2名を置く。その選出と任期については第9条および第12条を準用する。
- 第14条 本会は毎年1回総会を開催する。幹事会が必要と認める時、または会員の三分の二以上の請求がある時は臨時総会を開催する。
- 第15条 総会における決定は、第17条のほかは出席会員の過半数により、可否同数の場合は議長の決定によるものとする。
- 第16条 幹事会は必要に応じて開催し、会の運営にあたる。
- 第17条 本会の規約の変更、または本会の解散には、総会において出席会員の三分の二以上の賛成を得なければならない。
- 第18条 本会の規約は 年 月 日より施行する。
- 以上

日本女性学会第1回公開シンポジウム：女性学の出発

日時 6月1日(日) 午後1時～5時

場所 法政大学62年館211番教室

報告者ならびにテーマ(順不同)

駒尺喜美(法政大学)	私にとっての女性学
渥美育子(青山学院大学)	アメリカにおける女性学の到達点
松原純子(東京大学)	日常性の中の女性学
藤枝滯子(京都精華大学)	第三世界と女性
千葉康則(法政大学)	人間学と女性学

司会 米田佐代子(東京都立大学)

池上千寿子(フリー・ライター、『マザリング』編集長)

会費 会員外の方は500円(学会ニュース1, 2号を進呈)

日本女性学会の初の公開シンポジウムのテーマは“女性学の出発”と決まりました。女性学というような学問は果たして成り立つのか。そのような声のあることを知らないわけではないし、これこれの問題視角や方法こそ女性学を成立させる核心であるといったコンセンサスもまだできてはおりません。今はまだそれぞれの研究者が、自分の専門とする分野のバックグラウンドをふまえて、自分なりの女性学の理解に従って、一つずつ研究を積み重ねていくほかはないかと思えます。またそれをおろそかにしては、これからの女性学の実りある展開も約束されがたいでしょう。

第1回シンポジウムはこのような観点から、会員である5人の研究者の方がたに御報告をお願いしました。これに応じて会場からも活発なディスカッションの湧き起こることを喝望いたします。未成の若い学問を育てていくのは、何よりも1人1人の研究者の率直な意見交換に俟つところが大きいです。

報告内容を一部御紹介します。(ただし原稿未着のため、編集部で一部補足した方があります。)

駒尺さん 女性学とは女の視点からすべてのものごとを読みなおすことと考える。だが女の視点とは一体どういうことか、私なりに吟味を加えてみたい。

渥美さん Adrian Rich, Susan Griffin, Mary Daly の作品を取り上げ、女としての個人的な体験と、生態学、神学、哲学、文化人類学、史学などの結びつきのなかで、フェミニズムをてことした創造と発見の旅を具体的に明らかにしたい。

松原さん 現代の学問大系は物質生産優位の社会的要請の下に形成されてきた。その限界に直面している今日、日常生活の基盤である生命生産活動を直視し、サイエンス・オブ・ライフとして既成の学問の再編成を。

藤枝さん 女性学はこれまで第三世界の女性の問題を視野から欠落させてきていたのではないか。アジアに位置する日本の女性学にその視点を。

千葉さん 女性学というと男性学はどうなのかと言われることもしばしば。人間学として考察されて来たものと女性学との交錯する地点を探してみたい。

入会について

日本女性学会では、会員の入会をひろくよびかけています。各分野で孤独な頑張りをつづけながら、それを女性学として理論化したり具体的に考えていくことに関心をおもちの方、またこれまで小さい仲間づくりをすすめてきた方々など。

会員資格

現在、何らかのかたちで女性学研究を行っている者(性別・国籍を問わない)で、本会役員によって入会を認められた者。

申込み

下記のことを事務局宛に送付する(50円切手と返信用封筒同封のこと)。

○履歴書 〇自分の行っている研究または仕事の概要(400字詰原稿3枚程度。自分なりの視点でよいが必ず女性学との関連に触れること)。

上記のものを事務局で受理した後、本会役員で検討させていただき、参加の諾否を御連絡いたします。役員会は現在月1回程度しか開かれませんが、必ず事務局からの連絡を待って、所定の用紙により会費を振込んでください。

年会費

一般会員	4,000円
賛助会員	個人 一口 30,000円
	法人 一口 50,000円

事務局

編集後記

あわただしい総会の御招請となりました。多忙な中でほんの少しの時間を割き合って準備を進めるほかありませんので、いたらない点は御勘弁ください。幸いなことに、3月28日の研究報告会の顔合せ以来、学会運営に快く助力をお申し出くださった方がたがおられ、そのお助けを借りてただ今総会に向けて鋭意準備中です。会員の皆さまの無理のない自発的な御協力によって、会が運営されていくことを願っております。今回は総会開催の諸連絡に急を要しましたため、ニュース・レターの発行をお引受けくださっている野口栄子さん、安田富貴子さんの関西勢に代わり、臨時に東京で編集をいたしました。(編集責任者 漆田和代)